

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和 6年 2月 22日

事業所名 児童発達支援 どんぐりの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		現在仮設運営のためスペースには限りはあるが、狭いスペースでも工夫して活動している。	
	2	職員の配置数は適切である	5		適切に職員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	5	現在仮設運営のため、バリアフリー等ではないが安心安全に配慮した環境作りに努めている。	現在仮設運営のため、バリアフリー等ではないが安心安全に配慮した環境作りに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		こまめな喚起、活動終了後の清掃、消毒、定期的に安全点検を実施している。	こまめな喚起、活動終了後の清掃、消毒、定期的に安全点検をし環境整備を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		PDCAサイクルを活用して業務改善に努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		年に一度実施しており、集計して業務改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		現在ホームページの作成中。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		第三者による外部評価を受けていないが、サービス提供についての自己評価、保護者様からの評価をいただき、業務改善に繋げている。	今後も、年に一度のサービス提供についての自己評価、保護者様からの評価を継続して行い、業務改善に努める。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		法人として参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時、連絡帳を介しその日の様子を保護者様にお伝えし、保護者様から相談等があれば対応している。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		今年度はペアレント・トレーニングを実施していないが、都度、保護者様と情報共有や共通理解を図ることができるよう心掛けている。	令和6年度よりペアレント・トレーニング実施
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		文章にて明文化しており、契約時に両者にて読み合わせを行い各一部ずつ保管している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		都度対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5	現在、事業単体の父母の会は実施していません。また、保護者会の開催もありません。	保護者様の意向を取り入れ、今後検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		現在は連絡帳等を活用して情報等の発信をしている。	施設だよりについては令和6年度より実施。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5	事業所単体としては実施していない。	令和6年度より実施。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			令和6年度より施設単独訓練ではなく、併設の施設と合同実施。 法人全体で共有する。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		5		令和6年度より施設単独訓練ではなく、併設の施設と合同実施。 法人全体で共有する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		5	事前に、服用や予防接種、てんかん発作の状況は、保護者様より情報提供していただき対応している。	施設だけではなく法人全体で共有する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	食物アレルギーがある利用者様に関しては、保護者様より情報提供していただき対応している。	施設だけではなく法人全体で共有する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		5	職員全体で情報共有している。	ヒヤリハット発生時は、施設だけではなく法人全体で共有する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		5	マニュアルに基づき、研修会を実施している。	研修会の他に必要に応じて会議を開催して、虐待防止の意識を高める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		5	これまで該当例がなく、身体拘束はない。身体拘束を行う場合のマニュアルを法人全体で整備している。	今後対応が必要な場合には、利用者様、保護者様に同意を得た上で、計画書への記載・実施・記録を行う。